

第2章 堺市の生物多様性

1. 堺市の生物多様性の特徴

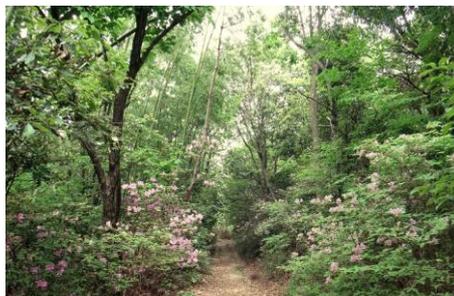
市内には都市部のほか、様々な陸域や水域の生態系があり、このことが本市の自然環境の特徴といえます。これらの多様な生態系に 5,990 種の野生生物が確認されており、大都市でありながら、生物多様性が豊かな都市といえます。堺らしい自然環境が有機的につながり、生態系ネットワークが形成されることにより、生物多様性がより豊かになることが望まれます。

(1) 堺らしい自然環境

ア. 堺の陸域と生物

南部丘陵

南部丘陵は、本市の生物多様性を考えるうえで最も重要なエリアの一つです。ここは、豊かな里山環境が残された貴重なエリアで、コナラ林やシブカガシ林、アカマツ林などの森林や、棚田、ため池などの人との関わりを通じて育まれてきた里地里山がみられます。その生態系は、オオタカ、フクロウ、ヤマトサンショウウオ、カジカガエル、キンランなど希少な生き物のすみ処となっています。また、南部丘陵は大阪府の「生物多様性ホットスポット（生物多様性が高く絶滅危惧種が多い地域）」のAランク（2014年10月）に選定されたエリアでもあり、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山（重要里地里山）」（2015年12月）にも選定されています。



南部丘陵の林道

農地

本市は、大阪府内1位の総農家数や農地面積を持つ農業が盛んな地域です。農地には米や野菜などの食糧生産の場としての役割があります。農地やため池などで構成される農空間は、トンボ類やコオロギ類などの昆虫やケリなどの鳥類のすみ処や餌場になるなど、生き物の生息・生育の場としても重要な役割を果たしています。



南区に広がる棚田

古墳・社寺

市内に点在する古墳や社寺林はまとまった緑地の少ない市街地における生き物のすみ処となるため、生物多様性の観点からも重要です。とりわけ、百舌鳥古墳群は日本の古墳文化を物語る世界遺産であり、歴史・文化的な観点も含め、堺らしい自然環境の一つといえます。



仁徳天皇陵古墳

公園・市街地

市街地には、浜寺公園、大泉緑地、大仙公園などの大規模な都市公園や緑道、生産緑地地区を含む都市農地、事業地内の緑地、住宅の庭など、様々なタイプの緑地があります。これらの緑地は、生き物の住み処や移動経路となる可能性があり、生物多様性にも配慮していくことが重要です。



大仙公園

イ. 堺の水域と生物

沿岸部及び河口汽水域

本市の沿岸域を含む大阪湾は、古くは「茅渟（ちぬ）の海」（チガヤなどが生い茂る美しい地方の海）とも呼ばれ、クロダイやカタクチイワシ、カニ類など多様な生き物がいます。これらの海の生物多様性の恵みは、私たちの食生活を豊かなものとしています。



大和川河口

臨海部

臨海部では、かつて埋め立て地の造成や護岸整備が進められたため、天然の砂浜や干潟はほとんどありません。そのため、大阪府による、堺第7-3区における「共生の森」の創出や堺浜における人工干潟の整備のほか、人工海浜「堺浜自然再生ふれあいビーチ」の整備など、海岸環境の創出・再生を図ってきました。共生の森では、チュウヒやコアジサシなどの鳥類も見られます。



堺浜自然再生ふれあいビーチ

ため池

市内には 500 あまりのため池があり、昔から農業用水をためるために受け継がれてきています。また、ため池には災害を防ぐことや水辺空間として水に親しめる場所を提供している側面もあるうえに、周囲の環境を含めて、カワセミやオオヨシキリ、トノサマガエル、ミナミメダカ、ヨシなど、多様な生き物の生息・生育空間にもなっています。



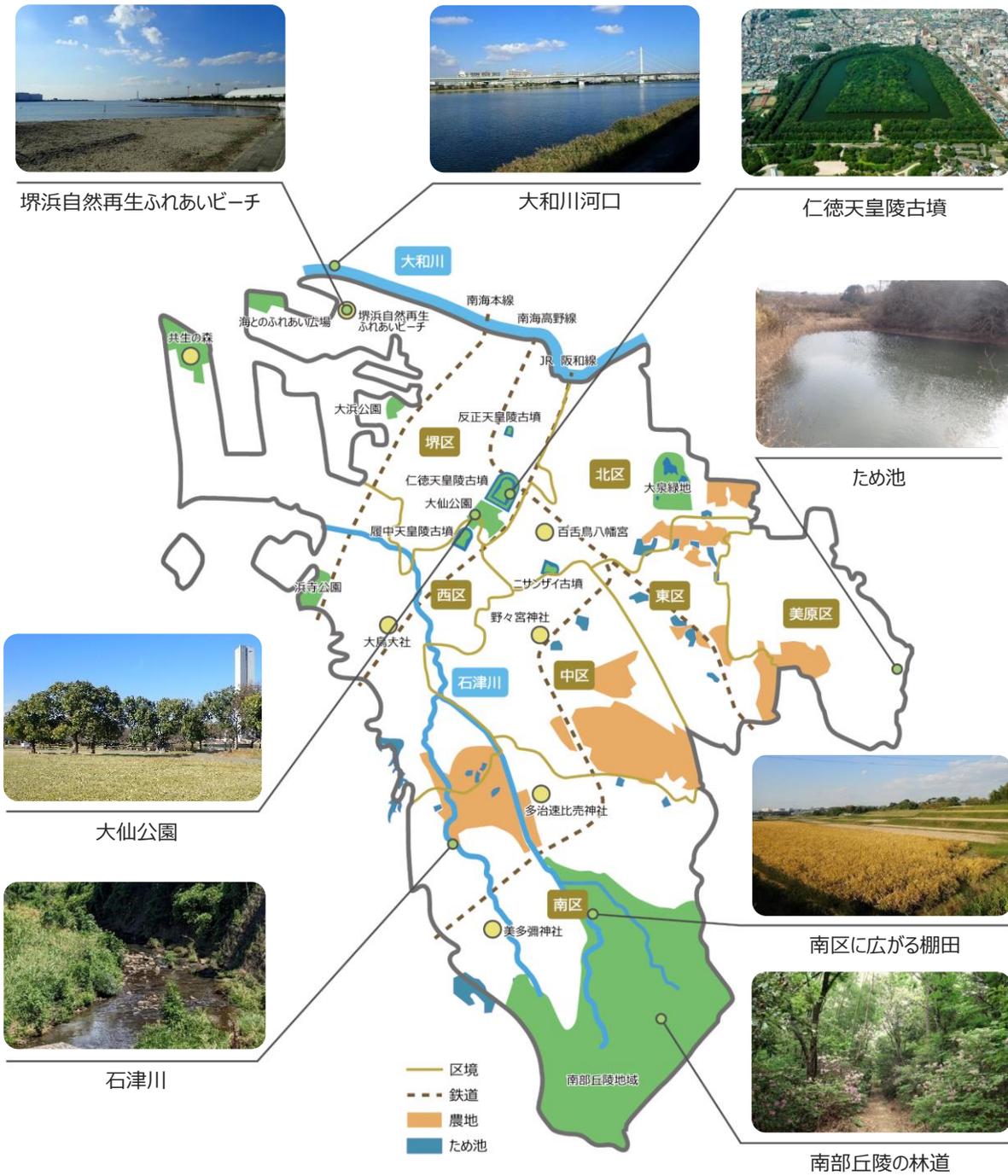
ため池

河川

市内の河川は、石津川水系、大和川水系、内川水系の 3 水系から形成されています。石津川水系は南部丘陵を源とし、大阪湾に注いでおり、ヌマムツ、タモロコ、ミナミメダカ、ドジョウなど多様な魚類が生息しています。



石津川



堺市の自然環境

☆本市の自然環境について詳細をご覧になりたい方は URL や QR コードより「参考資料」をご参照ください。

URL : <https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/gyosei/shishin/kankyo/seibutsu/sakaisenryaku.html>

(QR コードはデンソーウェブの登録商標です)



(2) 堺市のこれまでの主な取組及び近年の動向

本市では、生物多様性の保全や認知度の向上、市民・団体の活動の促進に向けた各種取組を推進しています。

2016年3月、生物多様性ウェブサイト「堺いきもの情報館」を開設し、生物多様性に関する情報を発信することなどにより、市民、団体などの活動促進を行ってきました。生き物の写真や場所などの情報を市民が投稿できる「いきもの発見報告」のコンテンツには、現在、年間約2,000件の情報が投稿されています。その中には、市内では絶滅したと考えられていたイソヤマテンツキ（海辺付近に生える植物）の投稿があり、本市での再発見につながる報告もありました。



「堺いきもの情報館」のトップページ

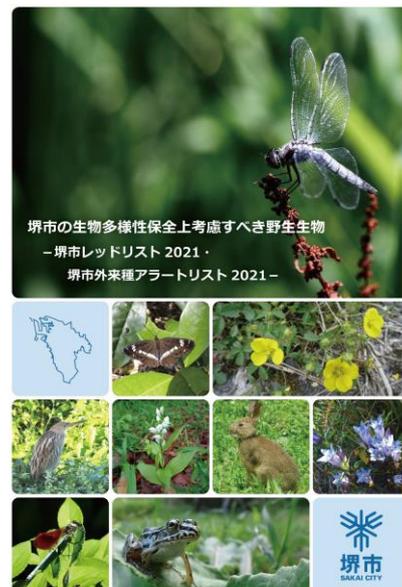


～夜の生き物観察会～ライトトラップで昆虫観察

本市では、市民協力によるモニタリング調査や学校などとの連携による環境教育なども実施しています。市民参加型モニタリング調査として「堺で発見！いきものクエスト」や「～夜の生き物観察会～ライトトラップで昆虫観察」などのイベントを開催しました。また、小学校への教材提供などの学習支援による「いきもの調査授業」を45校（2021年度実績）で実施しました。

本市では、市内に生息・生育する野生生物を「堺市野生生物目録」として一覧にまとめています。また、生物多様性保全上考慮すべき野生生物を「堺市レッドリスト」「堺市外来種アラートリスト」として整理しています。このように、市内の野生生物に係る情報の収集・整理も進めています。（最新の改定は2021年3月）。

また、南部丘陵の緑地保全に向け、保全緑地（堺市緑の保全と創出に関する条例）及び特別緑地保全地区（都市緑地法）の指定や、堺自然ふれあいの森での里山環境の保全活動などの取組を進めています。



堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物
～堺市レッドリスト 2021・堺市外来種アラートリスト 2021～

一方で、侵略的外来種も市内で確認されています。アライグマやウシガエル、セアカゴケグモなどのように、在来種や、人の健康、農作物などへ影響を及ぼす侵略的な外来種も確認されています。また、2015年にアルゼンチンアリ、2016年にクビアカツヤカミキリなど、相次いで特定外来生物も確認されています。本市では、これらの侵略的外来種について、国、府、近隣市などの関係機関と連携し、市民への注意喚起などを行っています。



クビアカツヤカミキリ



「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産登録決定（2019年）

生物多様性に関連する取組として、本市では2018年に「SDGs 未来都市」に選定され、2021年には「堺市気候非常事態宣言」や「ゼロカーボンシティ」を表明し、2022年には「堺エネルギー地産地消プロジェクト」が国の脱炭素先行地域に選定されるなど、脱炭素社会の実現に向け各種取組を進めています。また、プラスチックの一部が海へと入り込むことで、海の環境や生態系に影響を与えることが懸念されていることから、使い捨てプラスチック削減にも取り組んでいます。

また、2019年に世界遺産として登録された「百舌鳥・古市古墳群」の百舌鳥古墳群は、市街地における生き物の重要な生息・生育地にもなっています。

表 生物多様性に関連する近年の堺市の主な動向

年	主な動向
2013年	・生物多様性・堺戦略策定
2014年	・南部丘陵が大阪府の「生物多様性ホットスポット」のAランクに選定
2015年	・「堺・南部丘陵」が環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山（重要里地里山）」に選定 ・「堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物－堺市レッドリスト2015・堺市外来種ブラックリスト2015－」発行 ・「堺市野生生物目録」作成 ・市内で特定外来生物アルゼンチンアリ確認
2016年	・「堺いきもの情報館」（生物多様性 Web サイト）を開設 ・市内でクビアカツヤカミキリ確認（その後特定外来生物に指定）
2018年	・SDGs 未来都市に選定
2019年	・百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録
2021年	・堺市基本計画2025の策定 ・堺市SDGs未来都市計画（2021～2023）の策定 ・堺環境戦略の策定 ・堺市気候非常事態宣言及びゼロカーボンシティを表明 ・「堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物－堺市レッドリスト2021・堺市外来種アラートリスト2021－」発行 ・「堺市野生生物目録（2021年3月版）」作成
2022年	・「堺エネルギー地産地消プロジェクト」が「脱炭素先行地域」に選定

(3) 堺市の生物多様性の課題

本市には豊かな生物多様性がありますが、次のような課題へ対処することが必要です。

堺市の生物多様性に関する課題

○多様な生態系の保全とネットワーク化

- ・多様な生態系が残されており、それらを有機的につなぎ、生物多様性をより豊かにすることが必要である。
- ・南部丘陵などの生物多様性ホットスポットの保全・管理を継続し、豊かな生物多様性を継承する必要がある。

○侵略的外来種の拡大、野生鳥獣による被害発生

- ・アルゼンチンアリ、クビアカツヤカミキリが確認されるなど、侵略的外来種対策が必要である。
- ・野生鳥獣による生活環境や農作物への被害の低減が必要である。

○市街地における生息・生育地の減少

- ・市街地における緑量の確保及び質の向上が必要である。
- ・市街地にある緑地において、生物多様性への配慮をより一層進める必要がある。
- ・市街地に点在する緑地を有機的につなげる必要がある。

○市民・事業者の行動変容が必要

- ・市民や事業者のさらなる主体的な生物多様性への配慮行動が求められる。
- ・市民それぞれの行動変容や、経営・ビジネスの場面で生物多様性配慮の視点を取り入れることが必要である。

○生物多様性情報の収集と活用

- ・現況として、市内で 5,990 種の生き物が確認されており、継続的な調査・モニタリングが必要である。
- ・収集・蓄積した情報を保全活動に効果的に活用することが必要である。

○国内外の動向を踏まえた事業の展開

- ・生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる（ネイチャーポジティブを実現する）必要がある。
- ・自然環境が有する多様な機能を活用し、様々な課題に対応する自然を活用した解決策（NbS）やグリーンインフラの視点をもった取組を推進する必要がある。

2. 本プランにおいて重視する観点

本市の生物多様性の特徴や課題、国内外の動向を踏まえ、本プランにおいては次のことを重視します。

＜重視する観点＞

- ① ネイチャーポジティブを考慮した取組の推進
- ② 堺らしい自然環境のネットワーク化の推進
- ③ 南部丘陵や農地、百舌鳥古墳群等の重要地点における生物多様性の保全の推進
- ④ 市街地での生物多様性向上の推進
- ⑤ 河川や海辺などの水辺環境再生の取組の継続
- ⑥ 侵略的外来種対策の推進
- ⑦ 野生鳥獣による被害への対策の推進
- ⑧ 生物多様性の観点での市民の行動変容の促進
- ⑨ 事業活動における生物多様性への配慮の促進
- ⑩ 生物多様性情報の更新・蓄積と保全への活用
- ⑪ 自然を活用した解決策（NbS）やグリーンインフラの視点をもった取組の推進